

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

- 1 駅舎の葺瓦を眺め遣る。
2 委蛇として隈澳に傍う。
3 籬垣を廻り表門に到る。
4 兵站部に食糧を移送する。
5 京城の丐者を禁ずる布令が出た。
6 屋根が森風に巻き上げられた。
7 上つ世の墳塋を此処彼処に見る。
8 遠征の地に数年淹留した。
9 醸金を募って記念館をつくる。
10 圧状づくめに言質をとる。
11 二国間に罅隙を生じた。
12 恋愛は人生の秘鑰である。
13 貶謫の憂き目をみる。
14 時を移さず残賊を剿絶する。
15 風声鶴唳を以て勍敵となす。
16 藁中の奇は松茸に若くは莫し。
17 腥膻の窟に交臂抒情せず。
18 午睡より醒め欠伸至って快なり。
19 気風春日の煦育するがごとし。
20 好言口よりし莠言口よりす。
21 道に横綱だ。
22 肉醬の造り方を教わる。
23 夫の懶惰をヒステリックに毀る。
24 轅を反して城外に出た。
25 尽れた野山を風が吹き渡る。
26 膠に浸した牛革を金槌で撓める。
27 指の間に蹠がある。
28 杳として繹ぬべからず。
29 百目の聞見する所を殫くす。
30 汗流れて背に洩し。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(30)
2×15

- 1 蒐集家のリュウゼンする稀観本である。
2 両チームの実力がキッコウする。
3 ウだるような暑さが続いた。
4 己の真情をヒレキする。
5 路がヤチマタに分かれていた。
6 策謀を運らして王位をサンダツする。
7 レツパクの気合いとともに両断した。
8 イナセな若い衆が勢揃いした。
9 タケヒゴで模型の骨組みを作る。
10 カンナクズが辺りにとびちる。
11 妻に先立たれてフヌけになった。
12 コシヨウの臣として重用された。
13 主君にコシヨウして上洛した。
14 瓶の底にオリが溜まる。
15 猛獣がオリから逃げ出した。
(三) 次の傍線部分のカタカナを国字で記せ。(10)
2×5
1 家具が部屋の天井にツカえた。
2 ム口の球果を利尿薬に用いる。
3 秤にかけると五百キログラムあった。
4 ナマズを蒲焼きにする。
5 カケスは椋の実を好んで食する。

(四) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、左の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 欲深くてけちなこと。
2 遠い子孫。
3 艦船に装置・設備を施す。
4 ひどく嘆き悲しむ。
5 つまづいて転ぶさま。

ぎそう・けんのん・けんりん
さだ・そくいん・つうこく
びようえい・まんさん

(五) 次の四字熟語について、問1と問2に答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を左の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- ア (1) 蓬矢 カ右顧 (6)
イ (2) 万鈞 キ曲突 (7)
ウ (3) 虎頸 ク茅屋 (8)
エ (4) 千金 ケ危言 (9)
オ (5) 不振 コ造次 (10)

いっけつ・えんがん・かくろん
さいてん・さべん・ししん
そうこ・てんぱい・へいそう
らいてい

問2 次の11〜15の解説・意味にあてはまるものを問1のア〜コの四字熟語から一つ選び、記号(ア〜コ)で記せ。(10)
2×5

- 11 身のほど知らずに思い上がる。
12 未然に災難を防ぐ。
13 男子が志を立てること。
14 とっさの場合。わずかな時間。
15 極めて威勢がよいこと。

1 級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

(六) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- 1 石竜子
- 2 山毛櫨
- 3 蝦蛄
- 4 文身
- 5 珠鷄
- 6 金翅雀
- 7 牛尾魚
- 8 滷汁
- 9 馬陸
- 10 熨斗

(10)

1×10

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。

□の中の語は一度だけ使うこと。

(20)

2×10

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 澹泊 | 6 音物 |
| 2 掉尾 | 7 読経 |
| 3 重痾 | 8 崩御 |
| 4 喧鬧 | 9 僻陬 |
| 5 契合 | 10 倥傯 |

(七) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

(10)

1×10

〈例〉健勝……勝れる ↓

けんしょう
すぐ

- ア 1 芟鋤……………2 芟る
- イ 3 搏飯……………4 搏める
- ウ 5 擺脱……………6 擺く
- エ 7 迴迴……………8 迴か
- オ 9 惆悵……………10 惆む

- かんかく・げきせき・しつよう
とうか・はんげき・びよう
ふうじゅ・へきとう・へんすい
ほうしよ

- 1 立てばシャクヤク座れば牡丹歩く姿は百合の花。
- 2 セツカクの屈するは以て信びんことを求むるなり。
- 3 ノミと言えは槌。
- 4 ショウチ本来定主無し。
- 5 シンルに順う者は帷幕を成す。
- 6 田鼠化してウズラとなる。
- 7 スウジヨウに詢る。
- 8 キウウサクの六馬を馭するが如し。
- 9 豆腐にカスガイ。
- 10 白頭新の如く、ケイガイ故の如し。

(十) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30)

2×10
1×10

A 鉤を飲んだ荊公も、水の骨は喉につかえしなるべく、余所目から見では、高慢ほどおろかなる者はなけれど、当人は天晴れ遼東の豕の尾をふりて、中華とほこる支那の大都、南京に羽ぶりよき熊鷹官員の田仲蛆の子に、田亢龍といえる男あり。財と位にキウキウたる父には引きかえて、富貴何する者ぞ、鄧通銭を鑄りて饑えを免れず、梁武極に登りて餓にくるしむ。噫麻衣葛巾竹外に一榻の茶客と談り、ジュンコウ鱸膾炉辺に半日を酒徒と楽しむに如かんやとの大見識。四書五経に眼はさらさねど、莊列荀韓に耳を立て、恵子の痴説を喜んで飛鳥動かずと、古銅の如意鉤を捻りたる云い草。されば素より天下を睥睨して、一粒ゾクチュウ乾坤を蔵すと悟り、宇内をガンロウして、半升の鑑裏に山江を煮ると戯れる意気組。壁間には誰も読めぬ科斗の文字の一軸を掛け、文君去りぬ、塵世また誰と共にキンシツの和を望まんと、独身者の唯ひとり、瓦缶を敲き楚辞を呻って洪がるかと思えば、時々は調べの乱れたヴァイオリンを弾いて、鬪鶏の最後のようなきび声を発するは、真にふしぎと糾せば、食客の吟鯛子という日本人より、話をきいて、頃日急に香港から百弗余りで買ひ寄せたとの事。

(幸田露伴「露団々」より)

B およそ国を立つる、彼の長もとより取るべし。しかしして我の精神は失うべからず。これを失えば、いわゆる里婦の擧み、カンタンの歩み、その取るところの長もまたかえって害をなす。武は勇を長ず。天下の事、勇にあらざる、成らず。勉強、耐忍もとより勇に発す。文学の業あにキヨウダにして勇なき者のよく為すところならんや。勇を養うは武にあり。寛永以下治に狎れ、小に安んじ、務めて戦国猛暴の気を除き、交際を絶ち、自ら守るをもつて計の得たるものとし、外に進むの勢いなき、もつて内を養うべからざるを知らず。恬熙柔惰、一隻の外艦来りて全国ことごとく騷擾するに至る。文久・慶応の間、外激に触れ奮発す。ジヨウイは固陋の頑説なり。しかれども勇の憤りに発する、過ちを觀て仁を知るの義において、武道の一端もまた存す。これを御する、善からず。猛暴破裂、いわゆるテンチュウ暗殺の弊、豺狼に陥らんとす。

それ人は恃むところあれば、その氣壯学問の智識を明らかにし、器械の運用を便にする、みなその恃むの重きものなり。安逸の教育における、生まれて八年より体操を学ばしめ、その健康により後年軍事の驍勇なるを期す。その国俗のヒヨウカンなるも、学問盛んなるにつきて、その習を変せず。

(阪谷素「養精神一説」より)

氏名